

学習会(子ども会)だより 6月号 前編
MY SKY 第4号
マイ スカイ

1995年6月13日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責・吉成正士

①「^{しよぞめいつき}洗染一揆」(6月1日:2年第1回全体学習)

6月1日に、2年C組により2年生第1回の全体学習が行われました。板中以外からも100名以上の^{さんかいしゃ}参会者があり、大変^{なつき}熱気にあふれた学習となりました。資料は「^{しよぞめいつき}洗染一揆」でした。その中で、授業中に「^{てつぽう}鉄砲を^つ突きつけられ……」という発言が出てきたときに、私は昔のことを一つ思い出しました……。

私が^{おきな}幼い頃、私の父は^{しゆ}趣味で^{りよう}猟をしていました。実際の^{じっさい}猟に行く時は「^{きけん}危険だ」ということで^つ連れて行つてはもらえなかったように^{きおく}記憶していますが、^{りよう}猟に入るための^{りようけん}猟犬の^{くんれん}訓練として、^{しりようきかん}狩猟期間の前に^の野山に連れていってもらうことがありました。^{そうちよう}早朝の時もあったので、^{はださむ}肌寒くあまり^{らく}楽だとは言えませんでした。しかし秋の^の野山に行くことは私にとって本当に大きな^{たの}楽しみでした。^{きぎ}木々がざわめき、愛らしく聞いたこともないような鳥たちのさえずりが聞こえたものです。^{ふみ}踏みしめる^か枯れ草の^{くさ}ザッザッという音が^{せいじやく}静寂の中にしみとお^{せい}り、^の静の世界を楽しんでいました。時には野生の^{やせい}栗の木を見つけ、父とともに^{くつ}靴の^{うら}裏を^{たく}巧みに^{くりひろ}使い^{きよう}栗拾いに^{きよう}興じました。時には^{きせつはず}季節外れの^{なしえん}梨園に、^{おく}遅れて^{みの}実り取り残された^{なし}梨をちぎり、^て手持ちの^{ふる}古い^{こがたな}小刀で^{さんさく}むいて、^{ほお}散策しながら^{ほお}梨を^{ほお}頬ばったこともあります。^{りようけん}猟犬は^{ひご}日頃家につな^{ひご}がれていたうっぶ^{どろ}んを^{どろ}晴らすかのように、^{どろ}泥まみれになりながらかけずりまわっていました。私にはそんな思い出があります。

しかし、こと「^{じゅう}銃」に関しては、一つだけ^{おそ}恐ろしい思い出があります。

ある日、東京に住んでいた^{しんせき}遠い^{かん}親戚の兄さんが、うちに来ていました。その時、「是非とも^{ほんもの}本物の^{じゅう}銃を見てみたい」と、私の父に言いました。父は「^{たま}弾も入ってるわけでないからいいだろう」と思ったと思います。ずっしりと重く、^{くろひか}黒光りのする銃を、兄さんに^{てわた}手渡しました。兄さんはしばらく^{めづら}珍しそうに見回すと、その^{みまわ}銃^{じゅうこう}口を私に向けました。勿論^{もちろん}冗談^{じやうだん}です。それは分かっていたいました。顔にも^え笑みがこぼれていました。それを映すかのよう^{うつ}に、私の顔にも^え笑みがこぼれていました。しかし、本当の^え笑みではありませんでした。作^えった^{ほお}笑みです。本当は^{ほお}頬がこわばっていました。恐^{こわ}かった。「もし!もし、^{たま}弾が入っていたら!」そう思うと、本当に^{こわ}恐^ひかったのです。^ひ引き金^ひが^{がね}スローモーションのように引か

れていきます。私は思わず、自分の頭がザクロのように裂けて死ぬ場面^{そうそう}を想像してしまいました。「もし、弾^{たま}が入っていれば、これで自分は死ぬんだ！」本当は一瞬^{いっしゅん}のはずなのに、永い永い時間のように感じました。引き金^{ひきがね}が引かれ切る瞬間^{しゅんかん}！私の体は身震い^{みふる}をしました。当然、私は何ともありませんでした。当然と言えば当然です。しかし、本当にホッとしました。気がついてみると、手のひらには汗^{あせ}がいっぱいでした。座^{すわ}っていた椅子^{いす}からずり落ちそうなくらい力が抜けました。本当に怖い^{こわ}怖い瞬間^{こわ}でした……。

「渋染一揆^{しおぞめいっき}」の中で、鉄砲^{てつぽう}と向かい合う場面があります。その時の情景^{じょうけい}だけでも、本当に多くのことが伝わってくるものです。テレビや漫画^{まんが}、映画の中で、よく銃を突きつけられる場面がありますが、その時の心^{しん}情^{じょう}を一体^{いったい}どれだけの人が分かったでしょうか。それでもなお後ろ^{うし}に引かない、強い決意^{けつい}。本当に命^{いのち}がけなんだということが、よく分かります。

※

そんな全体学習^{さんかいしゅ}の参会者の感想を、次に記しておきたいと思います。ちなみに、最後に元南小学校の高井先生の感想を載せておきますので、しっかり読んでみてください。

今回で2回目の参加です。全同教大会の時より雰囲気^{ふんいき}が明るくなっているなと思いました。生徒のみなさんの純粋^{じゅんすい}な命^{いのち}の輝^{かがや}きに、今回も元気づけてもらいました。厚^{あつ}くお礼^{れいもう}申し上げます。

今回の参加で2Cの1時間の公開授業の後、トイレで用^{よう}を足^たしていた時のことです、一人の男の子が「同じことを何回やってもわかつとるのに」と言っていたら、もう一人の横にいた男の子が反論^{はんろん}まではいかないようでしたが、何か答えていました。そして、先ほどの時間^{はつげん}に発言^{たひ}した女の子の言葉に対するやりとりをしながら出ていきました。「同和教育はもうわかつとる」というような言葉を聞き、授業では出てこないであろう本音を聞いた思いがしました。この男の子がどういう思いで言ったかはわかりませんが、用^{よう}を足^たした後話しかけてみようと思いました。しかし、その時横にいたもう一人の男の子が、その子の言葉に対してうまくは話せていないのだけれども、何か反論^{はんろん}したいという気持ちが伝わってきました。穏やかな言葉^{おだ}だけれど、「それは違うんだよ」ということを分からそうとしていました。このやりとりの中で、板野の子は確実に育っているなと思いました。「おかしい」と思う言葉を聞いた時、すぐその場で正^{ただ}していこうとすることは、本当に大切なことだと思います。私は、横にいた男の子の言葉がなかったら、話しかけていただろうと思います。この男の子は、その場で充^{じゅう}分^{ぶん}説得^{せつとく}できなかったかもしれないけど、とても重^{じゅう}要^{よう}なことをしたと思います。親^{した}し

い友人同士であつたのかもしれませんが、親しいからこそ、なかなか言いにくいんだ
 ろうと思います。しかし、親しいからこそ差別者にはいけないということが、こ
 の男の子はよく分かっているのではないかと思います。（十分説得できず、悔しい
 思いをしたかもしれませんが……）それから、一方で「同和教育はもうわかつとる」
 と言った子ですが、本当にこの気持ちで言ったのか、あえてそういう言い方をしたの
 かは分かりませんが、どちらにせよ、この子と同じタイプの人には他にもいるのではな
 いかと思います。6時間目の全体の討議の授業で、このタイプの生徒がどれだけ変
 容したかどうかと思いました。教師側から見れば、本当に素晴らしい感動的な授業で
 した。でも、この男の子の授業後の感想はどんな感想だったのだろうと気になりまし
 た。差別する側が大きな顔をして、差別をなくそうとする側が小さくなってる。そん
 なことがいつまでも続いては絶対にいけない。このことを最近つくづく思います。差
 別意識の自覚、恥ずかしいことをしているんだという自覚を差別する側の問題として
 どう認識させていくかということを今一番に考えています。攻撃するのではなく、つ
 まらん生き方はやめようという自覚がどうすればできるかを、仲間と共に取り組んで
 います。またいろいろ教えていただけたらと思っています。同和教育で“カラッ”と
 した、笑いのある、楽しい授業を私も目指して頑張っていきたいと思います。どうも
 ありがとうございました。

新居浜市

※

素晴らしい授業でした。生徒たちが、森口先生を初め他の先生たち、そして仲間と
 の勉強を続けてきた中で、自己解放されている姿が手に取るように分かりました。皆
 それぞれに考えていることはあるのに、それを皆の前で意見するということは難し
 いことです。でも、とつとつとでも仲間に支えられて言う姿に感動しました。それを
 聞いている先生たち、仲間の温かい目って、なかなかできるものではないし、教育
 の大切さを痛感しました。意見が終わった後の、あの拍手がいいですね。

森口先生のような先生に、今中3の娘も出会えたら、彼女の青春にも幅ができる
 だろう……と思わず考えてしまいました。私も生涯、社会学を勉強していこうと思
 っています。女性学を10年学んできていますが、いろいろな視点に立って、部落問題
 だけでなく、勉強していきたいと思っています。何度も何度も、涙が頬をつたいま
 した……。

鳴門中学校

※

新天地^{しんてんち}でやっています。新学期になり2年生の子どもたちからも出ていましたが、まだ一つになり切れていないように感じました。担任の先生の入れ替え^{いれか}もあまり少ないと思うのですが、現実^{げんじつ}的なことへの対応^{たいおう}の変化がしきれていないようでしたね。子どもたちの成長^{じつかん}を実感^{じつかん}しつつ、これからの全体学習^{きんがく}への期待^{きだい}を持ちました。頑張^{むね}ってください。そして子どもたちに伝えてほしい。「胸^{むね}がつかえて涙^{なみだ}を流^{なが}して喋^{しゃべ}るのは、きみたちだけじゃない！みんなと同じ思いで、涙^{なみだ}を流しながら語る教師もいるということを知^しってほしい！」ということ。部落差別^{たたら}と闘^{たたか}っている仲間^{なな}はたくさんいる。絶対^{ぜったい}なくせるものであり、「あることがおかしいんだ」という真実^{しんじつ}を、仲間^{なな}と共に貫^{つらぬ}いていきたい。共に頑張り^{ちよしょう}ましょう。千代小^{ちよしょう}でも、板野^{いたの}でやしまったパワー^{せうだい}を増大^{ぞうだい}させるつもりです。またいろいろ教えてください。よろしくお願いします。

千代小学校 高井賢二



◎全員参加^{ぜんいんさんか}の部落問題意見発表会^{ぶらくもんだい いけんはっぴようかい}を！(6月6日：学級・9日：学年・13日：校内)

さて、6月6日には学級での部落問題意見発表会、9日には学年での部落問題意見発表会が行われました。私は要望^{ようぼう}のあった学級の風景^{ふうけい}を写真^しに撮^とるため、いくつかの学級を回っていました。(見かけた人もいるのではないのでしょうか) 去年までは、当然のごとく自分の学級の部落問題意見発表会しか知りませんでした。もし他のクラスの取り組みを知ることができたとしても、隣^{となり}のクラスや、たまたま教えてくれた先生のクラスの取り組み^{とり組み}だけでした。しかし今回^{こんかい}写真を撮^とりに回^{まわ}ることで、実に様々^{さまざま}な取り組みが、各学級で行われていることを、初めて知りました。

※

- ・ 学級の生徒全員が、一人ずつ自分の席で立って発表しているクラス。
- ・ いくつかのグループに分かれ、希望者から発表を行っているクラス。各班^{かくはん}で励まし合^{はげ}いながら発表をつなげていこうとする姿^{いんしやうてき}が印象^{いんしょう}的でした。
- ・ 机^{つくえ}を教室の後ろ^あにやり、空いたスペースに椅子^{いす}を丸く並^{なら}べ、その場で立って発表をしていくクラス。その後^{のち}に時間^{じかん}を設^{もう}け、発表についての意見交換^{いけんこうかん}もできていました。
- ・ あらかじめ全^{すべ}ての生徒に、発表について感じたことを記入^{きじゅう}する用紙^{ようし}を配布^{はいふ}しておき、発表^{たひ}の度^{たび}に少しだけ時間^{じかん}をとってその思いを綴^{つづ}っているクラス。そのクラスでは、後でそれらの思いをまとめ、生徒^{つた}に伝え返^{かえ}すのだそうです。

- ・ 班に分かれ、その班の中でそれぞれが発表していくクラス。そしてその班の中で代表者を決め、学級の発表会へとつなげていました。

※

どのクラスについてもそうですが、いろんな工夫がされていました。これらはあくまでも私の目から見た「やり方」で、中には見誤っている点もあると思いますし、少し見ただけでは分からないような、担任の先生の願いもあります。

私は去年の部落問題意見発表会の時、私一人が原稿を読んで学級代表を決めるという今までの「やり方」に疑問を感じました。「どうせやるなら『初めて発表したのが校内発表』ではなく、それまでに何度か選考を重ねて、より多くの生徒に発表する場を提供したい」と思うようになりました。しかも、「他の生徒が聞けるのならば、先生の側で選考するのではなく、生徒たち自身で代表を決めていけばいい」とも思いました。ですから、去年は学級発表の時に、生徒たち自身で自分のクラスの代表を2名選び、さらに学年発表で1名を選び出し、自分たちによる自分たちの代表を、校内発表会に送り出しました。

工夫とは、願いがあって初めて考え出されるものだと思います。（全体学習の出発にしてもそうです）各クラスの実態の中で、どんなクラスにしていきたいのか、そのためにはこの部落問題意見発表会がどんな意味を持つのか、それを生かすために、具体的にどんな工夫をするのか。そういう暗中模索の中で、それでもより良いものを求めて「工夫」するのだと思います。そういう点で、先生方の願いを少しでも感じることができ、私は凄く嬉しい思いがしました。是非とも全てのクラスのこれからの学級づくりにつながればと思います。

そんな発表原稿の中で、「どうしても『MY SKY』に載せてほしい」という原稿が二つ届きました。紙面の関係上、今回はそのうちの一つしか載せることができませんが、読んでみてください。

私と差別

私にとって差別というのはとても大きなものです。それは私が部落の人間だからです。私自身直接差別を受けたこともあります。それは、今思えば凄く辛いものでした。小学校2・3年の頃、私には部落外で仲の良い友達がいまいました。その子が私の家に来るまでに橋があって、その子の親が「橋越えて向こうは行ったらあかん」と言うのでその子は私の家へは来ることはできませんでした。その時は別に何も思わなかったけど、部落問題学習をしているとだんだんとその子の親が言った意味が分かってきて、

悔^{くや}しさと辛^{つら}さでいっぱいでした。

最近私は部落問題学習をするのがいやです。小学校の頃も何か考えているふりをしていたような気がします。この学習をすると、いつもうるさく騒^{さわ}いでいる子が口を閉ざして下を向きます。凄^{すご}く暗^{くら}い雰^{ふん}囲^い気になります。だからはっきり言って私もこの学習はいやです。それに、できることならば自分が部落の人間^{かく}ということ^{こと}を隠^{かく}したいという気持ちがあります。けど、同じ部落の仲間が頑^{たか}張^かって差別と闘^{たたか}っているのを見ると、凄^{すご}く自分の弱^よさに気づきます。私はなかなか自分を好きになれません。差別から逃げようとしている自分を……。

私の家はお父さんが部落の人で、お母さんが部落外の人です。結^{けっ}婚^{こん}するって言ったとき、凄^{すご}く反^{はん}対^{たい}されたそうです。でもそれを乗り切^けって結^{けっ}婚^{こん}したお父さんとお母さんは強いと思いました。私もそんな強い人間になりたいです。

私は差別されていると言ったけど、私も差別しています。それは「障^{しょう}害^{がい}」者^{しやうがい}に対する差別です。「障^{しょう}害^{がい}」を持^もっている人がいると、横^よ目^{こめ}でじろじろ見てしまいます。そして「かわいそう」って思います。なりたくて「障^{しょう}害^{がい}」を持^もったわけではないのに、「かわいそう」って「障^{しょう}害^{がい}」を持^もった人を自分より下に見てしまう自分が情^{なさ}けないです。

実は私のおじいちゃんは「障^{しょう}害^{がい}」を持^もっています。目が見えません。だから道を歩^{ある}くときだ^たって誰^{たれ}か助^{たす}けてくれる人がいないと歩^{ある}けません。近^{きん}所^{じよ}の人はそれを見て「大変やなあ、かわいそうに……」ってい言います。私はそれを聞いて、凄^{すご}く腹^{はら}が立^たったけど何も言えませんでした。おじいちゃんも笑^{わら}うだけです。ほんとは凄^{すご}く腹^{はら}が立^たったと思います。その時私は「何でこんなに人を悲^{かな}しませるのか」「どうして差別なんてあるのか」って、怒^{いか}りでいっぱいでした。私はおじいちゃんに何にもしてあげられません。辛^{つら}いです。けど、一つだけあります。それは、差別と闘^{たたか}うことです。私は今まで、自分^{じしん}に自信^{じしん}がありませんでした。だけど、これからはこの「人」を苦^{くる}しませる差別と闘^{たたか}う自信^{じしん}ができました。だから、何があっても下を向^{むか}いたりせず、堂^{どう}々^{どう}と生きようと思います。この差別と闘^{たたか}い、絶対^{ぜったい}に勝^{かち}てみせます。みんなにも頑^{たか}張^かってもらいたいです。一^{いっ}緒^{しょ}に頑^{たか}張^かっていきましよう。何年先になるか分からないけど、差別はきつとなくなります。私は、そう信^{しん}じています。

今日6月13日に、校内部落問題意見発表会が行われたはずですが、この他にも心に残る発表をたくさん聞いたのではないのでしょうか。「あつ、自分と同じだ」「あの子はそんなこと考えてたのか」と思った人も多くいると思います。そんな感想を、担任の先生に、ま

た吉成まで、是非とも届けてください。よろしくお願いします。



◇◇◇ これからの日程 ◇◇◇

これからの予定は、次のようになっています。暑さに負けず頑張りましょう！！

★6月13日(火) 校内部落問題意見発表会

★6月15日(木) 1年E組1年全体学習

★6月22日(木) 3年E組全校全体学習(板野町同和教育研究会)

★6月23日(金) 板野郡部落問題意見発表会(本校体育館)・かるた取り大会(武道館)

★6月27日(火) 江嶋修作先生講演会(本校体育館)

☆6月30日(金)～7月2日(日) 徳島県総合体育大会板野郡予選大会

★7月5日(水) 2年E組2年全体学習(四国同和教育研究大会前日全体学習)

☆7月6日(木)～7月10日(月) 1学期末テスト

☆7月20日(木) 終了式

★7月21日(金) 徳島県部落解放高校生奨学生集会(徳島市郷土文化会館)



―― 部落の起こりとその歴史 第3話「部から部へ……」――

前回までに、戦国時代から農業生産の時代に移り、幕府が支配力を強めていくために、少しずつ少しずつ身分制度を強めていったというお話をしました。つまり、永い年月をかけて、いつの間にか差別される身分にされていったのです。それが1600年代の後半でした。

ちょうどその頃から1700年代にかけて、部落がどのような立場にあったのかということについて、一つの出来事を挙げておきたいと思います。

享保9年(1724)の棟付帳(戸籍のようなもの)によると、阿波の南方にあるこの部落は戸数40戸を数え、阿波でも有数の大きさでした。ところが、年貢が納められている記録を見ますと、古くからその村に住んでいる人と比べて、部落の人は「新参者」(新しくその村にやってきた者)扱いされている記録が残っています。つまり、そう遠くない昔によそから移ってきたことが予想できます。また、この部落を広げた一つの家の記録を見てみますと、延宝2年(1674)に「えた頭」(部落のまとめ役)という役を与えられています。ということは、それ以前にこの土地に移ってきたという

ことになります。では、どうして移^{うつ}ってきたのか？そこで、記録をもとにしてこの事実の原因を想像してみたいと思います。

享保期^{きょうほうきご}頃の記録を見ますと、元阿波九城（大切な所に作った9つの城）のまわりに数キロ上流のこの部落からわざわざ出^で作り（家から遠く離れて農作業に行くこと）をしていることが確認^{かくにん}されています。当然阿波九城の周り^{まわ}には、軍需産業^{ぐんじゅさんぎょう}（戦争に使う物を作る仕事）の一つとして「かわや」（皮を扱う仕事）の人々が住んでいました。

しかし平和な時代がやってきて、この城は不必要になってしまいます。

寛永^{かんえい}15年(1638)のことです。つまりは、部落が城のまわりにある必要はなくなったわけです。

しかも時代は農業生産に力を入れていました。軍需産業^{ぐんじゅさんぎょう}の必要がなくなった今、部落の人々は、農業発展^{のうぎようはってん}のために先頭^{せんとう}に立たされ、苦しい思いをさせられていたのではないのでしょうか。しかも、田畑にされていない原っぱなどに強制的^{きようせいてき}に集団移住^{しゅうだん いじゅう}させられたのだと考えられます。そのことは、藩^{はん}の「年貢を毎年安定して取り立てる」ということにも、見事^{みごと}にあいます。この部落は、もともと石ころがゴロゴロする作物が育たない土地であったといわれています。太い木の根っこを掘^ほり起^おこし、石ころを除いて、田や畑を作ることは並^{なみ}たいていの作業^{さぎょう}ではなかったと思われます。大地との闘いといってよいほど、辛抱^{しんぼう}のいる辛い^{つら}仕事^{ちが}だったに違いありません。しかも道具は「手斧^{ておの}」や「鋤^{すき}」や「もっこ」などだけです。田畑にされた土地は、文字どおり祖先の血と汗と涙のたまものといえるでしょう。

このように、部落^{つね}は常に大きな労働力^{ろうどうりよく}として、当時^{とうじ}の藩^{はん}の進める農業を主とした政治の一番苦しい立場に立たされ、たいへんひどい労働をさせられていました。そして、その時々^{ときどき}の都合^{つごう}により、それまで住んでいた土地から引き離^ひされる運命^{はな}を背負^{せお}わされていたのです。……つづく

次回「仕組^{しく}まれた悲劇^{ひげき}・非人^{ひにん}」

「やさしい阿波の部落史」より改編^{かいへん}